

第1部 | 今、なぜ臨床性なのか

建築と心理・環境行動に関する研究の系譜 Genealogy of Architectural Psychology and Environment Behavior Study

作成：鈴木毅(近畿大学) 協力：垣野義典(豊橋技術科学大学)

建築計画分野を中心にした、建築と心理、環境心理、環境行動研究に関する系譜を、学位論文、代表的な著書、関連学会・委員会の発足年によって概観することを意図した年表である。学位論文題目の主題、用語、そして年ごとの論文の数(密度)が、この分野の動向を表している。

建築と心理については、建物の見え方・美学の問題を扱う、ギリシア建築以来のいわゆる建築心理学の系譜が中心であったが、1960年代に都市環境の急激な変化や課題を背景に、アメリカやイギリスで心理学と建築・都市デザインの学際的領域として、環境心理学が誕生し学会も発足した(EDRA1963)。

1970年前後、リンチ『都市のイメージ』、ホール『かくれた次元』、ソマー『人間の空間』と、この分野における古典的な著書が相次いで出版された。ここで提示された「認知・イメージ」「領域・テリトリー・パーソナルスペース」は、人間と空間を結び付ける重要な概念として、理論的枠組みとなりさまざまな対象で研究が展開した。またこのころ、オズグッドによって提唱された意味微分法(SD法)が、環境の刺激に対する生理・心理的な感覚を数値化する手法として紹介され、空間の開放感、建築や都市の複雑な形態の分析に応用されていく。

| 年号 | 単行本 | 雑誌・Journal | 学位論文 | 学会・委員会他 | |
|------|--|--|---|--|--|
| 1950 | 1957 | | 1957 足立孝：設計計画に於ける機能拡張に関する研究 | | |
| | 1958 | | | | |
| | 1959 | 1959 <i>The Image of the City</i> , Kevin Lynch | | | |
| | 1960 | 1960 『建築形態のダイナミクス』R.アルンハイム、乾正雄訳 | | 1960 黒田正巳：建築における大きさと形の恒常視に関する実験的研究 | |
| | 1961 | | | 1961 芦原義信：建築の外部空間に関する研究 | |
| | 1962 | | | 1962 塚田敬：建築色彩の視覚効果に関する基礎事項の研究 | |
| 1960 | 1963 | | 1963 乾正雄：色彩計画理論に関する研究 | | |
| | 1964 | | | | |
| | 1965 | | | 1965 戸川善久二：群衆流の観測に基づく避難施設の研究 | |
| | 1966 | 1966 <i>The Hidden Dimension</i> , E.T. Hall 1966 『沈黙のことば—文化・行動・思考』E.ホール、國弘正雄訳 1966 『眼と精神』メルロ=ポンティ、滝浦静雄・木田元訳 |  | | |
| | 1967 | 1967 『デザインと心理学』鶴山貞登 | | | |
| | 1968 | 1968 『都市のイメージ』K.リンチ、丹下健三・富田玲子訳 | | 1968 市川裕通：建築空間の雰囲気に関する心理統計学的方法論 | 1968 Environment Design Reserch Association  |
| 1970 | 1969 | 1969 『建築のための心理学』大山正・乾正雄編 1969 『アメリカ大都市の死と生』J.ジェイコブス、黒川紀章訳 1969 『空間の詩学』G.バシュアール、岩村行雄訳 | 1969 Environment & Behavior | | |
| | 1970 | 1970 『かくれた次元』E.ホール、日高敏隆・佐藤信行訳 |  | | |
| | 1971 | | | | |
| | 1972 | 1972 『環境心理とは何か』D.カンター、乾正雄編 1972 『人間の空間』R.ソマー、鶴山貞登訳 | | | 1972 日本建築学会環境工学委員会生理心理分科会 |
| | 1973 | 1973 『実存・空間・建築』N.シュルツ、加藤邦男訳 | | | |
| | 1974 | | | 1974 樋口忠彦：景観の構造に関する基礎的研究 | |
| | 1975 | 1975 『外部空間の設計』芦原義信 1975 『まもりやすい住空間』O.ニューマン、湯川利和・湯川聡子訳 | | 1975 山根正次郎：建築空間の視覚心理的考察 | |
| | 1976 | 1976 『環境の空間的イメージ』R.M.ダウンス、D.ステア、曾田忠宏訳 | | | |
| | 1977 | 1977 『環境心理の基礎・応用』W.H.イッテルソン、望月衛訳 | | 1977 志水英樹：中心商業地域におけるイメージの構造 | |
| | 1978 | 1978 『人間と空間』O.ホルノウ、大塚 恵一他訳 1978 『人間尺度論』戸沼幸市 | | 1978 岡崎基幸：建築空間における歩行のためのシミュレーションモデルの研究 | |
| 1980 | 1979 | 1979 『街のイメージ構造』志水英樹 1979 『街並みの美学』芦原義信 | | 1979 北村眞一：都市河川における環境イメージの解析方法に関する研究 | |
| | 1980 | 1980 『都市環境と住まいの心理学』吉田正昭編 | | 1980 窪田陽一：形態とスケールを中心とした景観解析の方法に関する基礎的研究 | 1980 人間と環境の相互作用過程に関する日米セミナー |
| | 1981 | | 1981 Journal of Environmental Psychology | | 1981 International Association for People Environment Studies  |
| | 1982 | 1982 『場所の心理学』D.カンター、宮田紀元・内田茂訳 1982 『新建築学大系 11 環境心理』乾正雄、長田泰公、渡辺仁史、鶴山貞登 | | 1982 大野隆造：テクスチャーの視覚的あらさに関する研究 1982 八木澄夫：建築構成面のつくる視空間の容量知覚に関する研究 | 1982 人間・環境学会(MERA)  |
| | 1983 | | 1983 『環境心理をめぐる諸問題』建築年報 | | |
| | 1984 | 1984 『バタン・ランゲージ』C.アレクザンダー、平田翰那訳 | | 1984 平手小太郎：都市街路景観の評価に関する研究 | |
| | 1985 | | | 1985 小林秀樹：住居集合における共有領域の形成に関する研究 | |
| | 1986 | 1986 『生態学的視覚論』J.J.ギブソン、古崎敬訳 | | | |
| | 1987 | 1987 <i>Life between buildings</i> , Jan Gehl | | 1987 高橋鷹志：空間の知覚的尺度に関する研究 1987 Tadashi Toyama, Identity and Milieu-A Study of Relocation Focusing on Reciprocal Changes in Elderly People and Their Environment | |
| | 1988 | 1988 『空間の経験—身体から都市へ』イーフー・トゥアン、山本浩訳 | | 1987 友田博通：住居集合計画手法に関する領域的考察：住居集合における開放性に関する環境心理的原理とその応用 | |
| 1989 | 1989 <i>The Great Good Place</i> , Ray Oldenburg | | 1989 大原一興：高齢者の生活拠点移動に関する建築計画的な研究 | | |

年表で何よりも目立つのは1990年代半ば以降の学位論文の急激な増加である。これには二つの背景があると考えられる。ひとつは人間と環境を不可分にとらえる相互浸透論(transactionalism)が高橋鷹志、舟橋國男らによって紹介されたこと(設計方法小委員会による「人間・環境系のデザイン」)。もうひとつは故外山義氏による研究である。前者を理論的背景として、また後者を研究のお手本として、研究者たちは各種施設や地域の現場に入り込み、人間と環境の関係、人間と場のかかわりをより深く読み取っていったのである(近年は「まちの居場所」等いわゆる施設ではない当事者たちが自らつくり出した場の質と運営に関心が広がっている。また震災における環境移行も大きなテーマである)。認知系の研究では、ギブソンの知覚に関する革新的な考え方である生態学的知覚理論をベースにした研究が、建築分野でも始まり幾つかの学位論文がまとまっている。

なお、論文題目に必ずしも「心理」という用語は多くない。「環境心理」という単語も心理学者、環境工学分野のものがほとんどであり、計画分野では行動をセットにした「環境行動」の方が普及している。論文題目を読んでいると、他者が居合わせ刻々と変化する建築や都市のリアルな場の状況をなんとかトータルにとらえようとする研究者たちの意気込みと試行錯誤を感じる。

| | | | | | |
|------|----------------------|--|---|---|--|
| 1990 | 1990 | 1990「クリッパンの老人たちスウェーデンの高齢者ケア」外山義 | | 1990 横山勝樹：空間図式の研究：建築における人間-環境系研究への序説 | |
| | 1991 | 1991「場所の現象学—没場所性を越えて」E.レルフ、高野岳彦・石山美也子訳 | | 1991 舟橋國男：Wayfindingを中心とする建築・都市空間の環境行動論的研究 1991 西出和彦：人間集合による空間形成に関する研究 1991 大井尚行：都市景観評価における変動要素の影響に関する研究 1992 今井ゆりか：空間形態の変容過程からみた設計プロセス研究 1992 土田義徳：記号的機能を有する音に関する研究 | 1991 人間-環境系の計画理論のとらえ方(研究懇談会) |
| | 1992 | 1992「建築理論の創造—環境デザインにおける行動科学の役割」J.ラング、高橋鷹志・今井ゆりか訳 | | | 1992 人間-環境系の計画理論のとらえ方続(研究協議会) |
| | 1993 | | | 1993 宇杉和夫：空間認識と景観構成の原質に関する基礎的研究 1993 日色真帆：都市空間の経路探索に関する研究 1993 足立啓：痴呆性老人の行動特性に応じた生活空間条件の建築計画的な研究 | 1993 中国環境行為学会(EBRA) |
| | 1994 | 1994「アフォーダンス—新しい認知の理論」佐々木正人 1994「生態学的心理学入門」A.W.ウィッカー、安藤延男訳 | | 1994 坂戸省三：空間イメージの内なる構成原理と建築的創作表現行為の心理・社会的基盤に関する研究 1994 横田洋：都市空間の構成と意識構造の相関に関する研究 1994 李京洛：空間適応過程からみた高齢者居住環境の建築計画的考察 1994 山口満：駅前空間における広場を中心とした景観の知覚構造に関する研究 1994 栂実：街路景観における評価構造 1994 乾亨：集住環境計画における「参加」に関する研究-相互浸透のプロセスによる「価値づくり」の計画 | |
| | 1995 | | 1995.6「人間の理解と建築」建築雑誌 | 1995 李威儀：都市空間のなかの居場所に関する研究 1995 古賀紀江：場の概念による住空間の研究-住居内での個人空間の形成について 1995 全榮爽：「都市共生性」の環境行動デザイン試論 | |
| | 1996 | | | 1996 橋本都子：人間の心理・認知に基づく空間規模に関する研究 1996 鄒 Dayton：在宅高齢者の住空間に関する環境行動的研究-日中比較文化的考察 | 1996 日本建築学会建築計画委員会 環境行動研究小委員会 空間研究小委員会 |
| | 1997 | 1997「人間-環境系のデザイン」日本建築学会編 1997「環境と空間」高橋鷹志・長澤泰・西出和彦編 1997「環境デザイン入門」G.T.M.アール、小林正美・三浦研訳 | | 1997 森一彦：複合的な集合施設における探索行動の研究 1997 鈴木毅：人の「居方」からの環境デザイン試論 1997 市岡鏡子：子どもの地域における環境行動に関する研究 1997 篠崎正彦：「生活資源」からみた地域における居住者の環境行動に関する研究 1997 栂鷹志：高齢者居住施設における環境適応プロセスに関する研究 1997 西名大作：河川景観の評価予測手法とその適用性に関する研究 | |
| | 1998 | 1998「人間環境学」日本建築学会編 | | 1998 三浦研：自然災害に起因した環境移行に関する研究-「悲嘆の仕事」としての空間の再構築 1998 水村容子：サリドマイド胎芽病による先天性下肢障害者の生活行為特性に関する住環境計画の基礎的研究 | |
| | 1999 | | | 1999 伊藤俊介：小学校の施設的文脈における児童の環境行動・認知の事例研究 1999 高橋大輔：新しい認知マップ実験としてのパズルマップ法の開発と建築の内部空間への適用 1999 小松尚：病院外来部 commonspace における居場所形成に関する研究 1999 葉真寺哲也：閉鎖空間における視覚的な制御情報に関する研究 | |
| 2000 | 2000 | 2000「よりよい環境創造のための環境心理調査手法入門」日本建築学会編 | | 2000 添田昌志：経路探索に有効な視覚情報とその抽出傾向に関する研究 2000 彭端玫：間仕切りの大きさ・位置が空間知覚に与える影響に関する研究 2000 高木清江：都市・建築における詩的イメージに関する研究 2000 岩佐明彦：計画的居住環境に関する研究-秋田県大湯村のケーススタディー | |
| | 2001 | 2001「建築空間のヒューマニゼーション—環境心理による人間空間の創造」日本建築学会編 | | 2001 西田徹：地域空間における環境行動の研究 2001 橋本雅好：臥位での空間認知特性に関する実験的研究 2001 赤木徹也：痴呆性高齢者の視覚探索特性に基づく建築空間整備に関する基礎的研究 2001 巖爽：「なじみ」の過程における痴呆性高齢者の構築環境に関する研究 2001 石井敬：生活行動に影響を与える環境構成要素に関する研究 2001 李斌：上海市の居住空間における「内」「外」に関する領域意識構造の研究 | |
| | 2002 | 2002「場所の力」D.ハイデン、後藤泰彦・篠田裕見・佐藤俊郎訳 | | 2002 島山彰文：居住環境に関する意識と行動の環境心理学的研究 2002 徐華：回遊空間における経路選択並びに空間認知に関する研究 2002 青木宏文：仮想無重力内部空間における空間認知に関する研究 | |
| | 2003 | 2003「環境行動のデータファイル」高橋鷹志、チームEBS | 2003.8「日常環境の心理と行動実験室からフィールドへ」建築雑誌 | 2003 周博：単位制高等学校の建築計画に関する研究：居場所の特性と情報伝達の仕組み 2003 松原茂樹：高齢者福祉施設におけるケア環境の小規模化に関する研究 2003 鈴木健二：入居高齢者の視点からみた痴呆性高齢者グループホームのケアと空間構成に関する研究 2003 秦丹尼：日本の都市環境における外国人の経路探索行動に関する研究 | |
| | 2004 | 2004「建築計画読本」舟橋國男編 2004「原っぱと遊園地」青木淳 | | 2004 佐藤将之：園児の社会的性獲得と空間との相互作用に関する研究：子どもの環境行動論 2004 垣野義典：フリースクールの建築計画に関する研究 2004 林田大作：都市生活においてオフィスワーカーが構築する「場所」に関する環境行動論的研究 | 2004 日本質的心理学会 2004 こども環境学会 |
| | 2005 | | | 2005 小林健治：都市の場所における人の居方とそのデザインに関する研究 2005 山田あすか：環境行動の視点からみた生活者による固有の居場所の選択とその要因 2005 山口健太郎：高齢者居住施設における重度要介護高齢者の離床環境計画に関する研究 2005 大崎淳史：場所の知覚・形成からみた室空間の立体規模デザインに関する研究 2005 神吉俊美：自立高齢者の生活展開からみた養護老人ホームにおける個室・ユニット化導入の効果 2005 幸山真也：建築デザインにおける生態幾何学の研究：環境のレイアウトと視覚体験に関する考察 2005 前田薫子：大規模無柱空間における知覚・行動尺度に関する研究 | |
| | 2006 | 2006「環境心理学の新しいかたち」南博文編 2006「構築環境の意味を読む」A.ラポポート、高橋鷹志監訳、花里俊廣訳 | | 2006 伊俊到：子どもの活動システム分析を通じた資源概念とデザインに関する環境行動論的研究 2006 中島美登子：構造化手法を用いた知的障害者の生活環境の改善に関する研究 2006 土田寛：プレイス・マーケティング法による都市のパブリックスペースにおける行動・行為の嗜好空間の研究 2006 吉住優子：地域・場所における水資源の概念と持続的利用に関する研究 | |
| | 2007 | 2007「ひとは、なぜ、そこにいるのか—「固有の居場所」の環境行動学」山田あすか 2007「環境心理学」佐古順彦、小西啓史編 | | 2007 田中康裕：まがしつらえる地域の場所に関する研究 2007 今村顕：アンカーポイントからみた高齢者施設の空間のわかりやすさ評価に関する研究 2007 鈴木弘樹：断面想起法による建築内部と外部の空間認知に関する研究 2007 境野健太郎：ハンセン病療養所の施設構成と居住環境の変遷に関する研究 | |
| | 2008 | 2008「環境と行動」高橋鷹志・長澤泰・鈴木毅編 2008「環境とデザイン」高橋鷹志・長澤泰・西村伸也編 2008「文化・建築・環境デザイン」A.ラポポート、大野隆造・横山ゆりか訳 | | 2008 加藤悠介：高齢者施設における居場所づくりに関する環境行動学的研究 2008 脇坂圭一：現代建築を対象とした生態学的空間記述方法に関する研究 | 2008 日本環境心理学会 |
| | 2009 | | | 2009 濱本紳平：<指図エレメント構成型>と<意識型>による都市の空間構造の研究 2009 細谷俊子：異年齢保育からみた保育園における異年齢交流の実態と空間構成に関する研究 2009 木下誠一：居場所としての地域施設計画に関する研究 2009 玉羽：移動による視覚的変化に基づく環境認知とデザインに関する研究 2009 李華：中国の都市公園の利用活動にみる社会・空間意識とその変遷に関する研究 2009 藤羽嵐：中国都市における高齢者の居場所に関する研究 2009 石川永子：環境移行をとまなう移転復興に関する計画論的研究：トルコ・マルマラ地震および新潟県中越地震の移転復興事業を事例として | |
| 2010 | 2010「まちの居場所」日本建築学会編 | | 2010 Makoto Inagami: An ecological study of environmental perception based on continuously rated feelings of "pressure" during locomotion 2010 趙雄：建築の立面の寸法認知と心理評価並びに立面構成要素の評価に関する研究 2010 中山誠徳：階段空間の移動に伴う印象の変化と階段デザインの評価に関する研究 | | |
| 2011 | 2011「人間都市学」大野隆造、小林美紀 | | 2011 金剛環：乳幼児のいる世帯における親子の居場所の特性と住空間のあり方 | | |
| 2012 | 2012「仮設のトリセツ」岩佐明彦 | | 2012 Abdul Mufti Radja: A study on use of Bale bale for shared place in high-density isla | | |
| 2013 | | | 2013 古賀政好：障子の別によらない生活環境構築に向けた障子・者施設での空間構成と生活様態の研究 2013 陶寛裕：診療所待合室の評価における環境心理学的研究 2013 鈴木規道：河川空間の心理的影響および記号化表現による「意識型」(形態型)のシークエンス構成に関する研究 | | |

博士論文書誌データベース(国立国会図書館・国立情報学研究所)より。本年表は、「建築雑誌」HPにて拡大してご覧いただけます。